

こんにちは—聴くことから、歌うことへ— 高野 初徳



帆船日本丸男性合唱団の皆様、こんにちは。高野 初徳（たかのはつのり）と申します。昭和23年7月生まれ、69歳です。金融機関に就職して65歳で退職するまで、関連会社を含めて、ほとんど、金融関係の仕事に携わってきましたので、他の業界のことはあまりよくわかり

ません。それではということで、関連会社籍時に、社会保険労務士のことを知り、資格を取得、退職後開業して、今日に至っています。

出生地は、東京ですが、父の勤務の関係から、東京、名古屋、兵庫と住むところが変わり、実家は、兵庫県宝塚となりました。両親が、宝塚に居をかまえたのは、母が、熱狂的な宝塚歌劇のファンがその理由です。（母は否定していますが——。なお、母の熱気は、妹と孫に引き継がれています。）

中学は、冬になると、風花が舞う六甲山の近くでした。高校1年のときに東京オリンピック、高校2年のときに「ビートルズの来日」がありました。当時の友人と「関西には、オリンピックもビートルズもこないなあ。なんでや。」「こっちは、なんといっても、お笑いの「吉本」があるやないか。」「そやな。それもわかるけどな、東京と比べて、やっぱり文化的な格差があるのとちゃうか。」などと話をしているうちに、「それやったら、大学は関西やなくて、東京に行こか。」ということで、東京にやってきました。

なお、その当時の友人は、固い約束にもかかわらず、京都で途中下車してしまいました。

住まいですが、横浜青葉区に居住して、約30年になり、すっかり「はまっこ」になりました。

入団に際しましては、仕事の関係で、先輩の本間さんと石井さんにお世話になりました。昨年、日本丸の公演会にお招きいただきまして、すばらしいハーモニーに魅了されました。

それまで、中学の音楽の時間は、癒しタイムで、授業は、NHKの「みんなの歌」が中心、高校は、確か授業は「コンコーネ」でした。音楽とは、全く縁がなく、歌うものではなく、聴くものでした。

小学校のときに聴いた、ハリー・ベラホント「バナナポート」やアンディウイリアムスの「ムーンリバー」を歌うことになろうとは、思いもかけませんでした。

中学校のときは、ニールセダカ、コニーフランシスのポピュラーミュージック、高校のときは、ビートルズ、ローリングストーンズのロックや、スタンゲッツのボサノバ、大学生となってからは、「モダンジャズ」。ジョンコルトレーン、レッドガーランドのファンで、自由が丘にあった、ジャズ喫茶「ファイブスポット」がお気に入りでした。ご縁があって、入団させていただきました。どうぞ、よろしく申し上げます。

スキー合宿報告 飯島 伸雄



1. 青森も雨だった

3月1日（木）、関東地方は発達中の低気圧の接近による豪雨の中、本間部長をはじめ、最年長の畠さん、常連の伊藤さん、長崎さん、山路さん、新木さん、野本さん、昨年は術後でスキーを見合わせた岡本さん、昨年に続き2度目の堀さん、そして初参加の飯島の10名が羽田空港に集合しました。

JAL141便は「強風のため引き返す可能性あり」とのマーク付きでしたが、0750予定どおり羽田を発ちました。

（当日はこの便以降の青森行きは全便欠航でした）機内の乗客は1/3程度で席を移動してゆったりとできましたが、青森上空では機体が激しく揺れ、本間部長が「酔った！」と弱音を吐くほどでした。不穏な空気の中、2度目のアプローチでどうにか着陸、その瞬間機内には拍手が湧き起こ



りました。

空港からはバスに乗り込み、雪に埋もれた広大なリンゴ畑を眺めながら約1時間、定宿の『ロックウツ

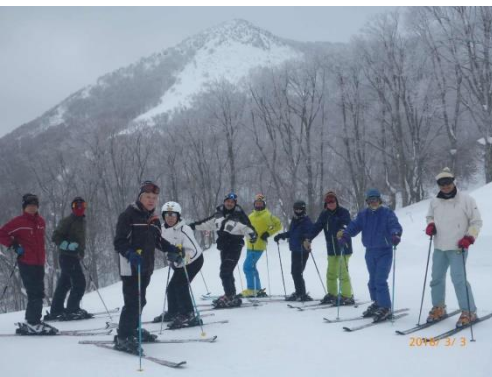
ド・ホテル&スパ（鱒ヶ沢スキー場）に到着しました。ホテルでは青森に移住中の佐藤さんが待機しており、総勢11名でのスキー合宿が始まりました。

この日は岩木山も風雨が激しく、スキー場の積雪は115cmに減少したとのこと、ゴンドラやリフトも強風のため営業見合わせ中で、スキーを断念せざるを得ませんでした。

あちこちからの「こんなことは初めてだ！」との声に初参加者としては、何となく肩身の狭い思いがしましたが、一同気を取り直した後は雪見風呂（露天もあります）、温泉三昧の午後となりました。夕食はビュッフェスタイル、地元青森の食材や料理に舌鼓を打ちながら、畠さんに頂いた日本酒を、その後の二次会では佐藤さんが用意してくれた田酒を楽しみながら、明日への鋭気を養いました。

2. 吹雪のスキー

前日からの風雨は夜半に吹雪に変わりましたが、相変わらずの強風でゴンドラは引き続き運転見合わせとなりました。クワッドリフトのみが運行すること、待ちに待ったスキーの始まりです。ゲレンデは他のスキーヤーをたまに見る程度でほぼ貸し切り状態、佐藤インストラクターの号令に準備体操にも熱が入ります。まずは足慣らしと思いきや、山の上は猛吹雪で、気を抜くとゲレンデのコース



どころか目の前のスキーヤーも見失う程のホワイトアウト状態でした。佐藤さんのコースガイドのお陰で、安全なルートを滑るうちに次第に身体も温まり、それぞれに勘を取り戻しな

がら滑走しました。

ここで気づいたことをいくつか紹介します。

①スキー板はカービングスキーです。身長よりも10～20cm程短く、取り回しも楽です。テイルを滑らすのではなく、重心移動によりエッジを効かせターンします。

②土地柄もあるのですが、帽子では無くヘルメット。佐藤さんは当然のことながら、岡本さん、伊藤さん、野本さんもヘルメットでした。毛糸の帽子より格好良く、欲しくなりました。

③ホテルにはオランダや日本のパラリンピック代表選手が直前合宿中でした。露天風呂にはサンダルを履いた義足が立てかけてあったり、ビュッフェでは義手で上手に食べ物をつまんだり、どうなっているのか興味を持ったのは私だけだったでしょうか？

この場で一言お詫びとお礼を…。私事ですが、今回は5年ぶりしかも初めてのカービングスキーでした。途中、新雪に足を取られて転倒し、外れたスキー板が新雪に潜ってしまい、多くの方に捜して頂きました。結局、見つけられずリフトで下山、一緒に探して頂いた皆様、ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんでした。

午後の部は、滑走班と合唱班に分かれて活動しました。ゲレンデは風も弱まり絶好のコンディションとなり、佐藤さんの個別指導（足を閉じる！腕を閉じない！顔を上げる！滑る先を見る！）により、夫々に上達を実感しながら練習に臨みました。誰も滑った跡のない新雪にシュプールを描きながら滑るのは格別でした。一方、合唱班は、楽譜を持参した山路団長の指揮により、ハモニカ演奏も含めて練習を行ったそうです。

心地よい疲労感を温泉で癒やした後は夕食です。滑った後とあって会話も弾みま

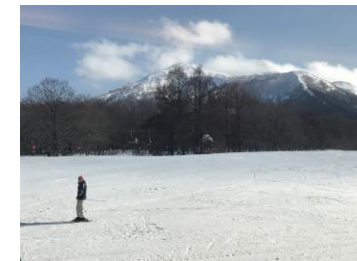


合宿の生い立ちや過去の出来事など、話の長さに比例してテーブルに転がるお銚子の数も2、4、6本…と増えていきました。部屋に戻っての二次会も盛り上がるにつれ歌わずにはいられなくなり、隣室の様子を気にしながら合唱です。パート毎の人数がアンバランスでしたが、演奏会の曲目を全て歌ってお開きとなりました。

3. 絶好のスキー日和

最終日です。0900 ゲレンデに集合した一行は、一気にゴンドラで山頂へ、鱒ヶ沢の町の向こうには日本海を臨み、さらに北側には「十三の砂山」に出てくる十三湖、遠く北海道も見えるとか…。天気も景色もそしてゲレンデも圧雪したての良い状態です。佐藤さんの「如何に楽に降りてくるかだよ。」の言葉に、夫々美しく滑っている自分の姿をイメージしながら滑走しました。その後は、個々にスキー合宿の総まとめと滑り納めを済ませて1230ホテルに戻り、最後のお風呂、最後の食事を済ませ帰途に着きました。

雪、ゲレンデ、そしてホテルの温泉や食事にも大満足の3日間でした。佐藤さんには個別指導ありがとうございました。



この合宿が10数年も続いている理由が判ったような気がしました。どうか来年は天気にも恵まれますように。それにしても沢山飲みましたね。